川内に農産物加工工場　農家の野菜買い取り　来春にも操業

（福島民法　2018/3/6 ニュースより）

東京電力福島第一原発事故からの復興に向け、川内村が村内に整備した田ノ入工業団地で来春にも、農産物の大型加工工場が操業を始める。**千葉県横芝光町の農業関連企業「農（みのり）」**が進出し、**川内をはじめ双葉郡内の農家からコメや野菜を買い取り、カット野菜と総菜を製造する。**将来的に**100人以上の新規採用**を計画しており、被災地の営農再開と地域活性化に弾みがつくと期待される。

「農」は昨年7月に完成した田ノ入工業団地の一区画に、鉄筋2階建て延べ床面積約4500メートルの工場を整備する。今年秋にも着工する見通しで、村と契約に向けた調整を進めている。同工業団地への進出は2件目で、建設に当たっては避難区域の産業復興を目的とした国の「自立・帰還支援雇用創出企業立地補助金」を活用する。

同社は川内村などの農家からコメやキャベツ、ネギ、ハクサイ、キュウリ、トマト、ピーマンなどの野菜を仕入れる方針。まずはコメを中心に買い取り、段階的に取引量と品目を増やす。将来的には野菜を年間約30～50ヘクタール分（東京ドーム6～10個分相当）、コメ約200ヘクタール分を確保する計画だ。

原発事故に伴う避難指示解除後、村内で営農を再開したのは約200ヘクタールで、原発事故前の七割弱となっている。作付けはコメが中心で、野菜は一部に限られる。村は今後、県と連携してビニールハウスなど農業用施設の導入や担い手の育成を支援し、加工に適した野菜の作付け拡大を目指す。

県によると、避難区域が設定された地域に大型の農産物加工工場ができるのは初めて。双葉郡内で生産された農産物に安定した販路が生まれ、営農再開や生産規模拡大に慎重な農家の意欲向上につながるとみている。

遠藤雄幸村長は「農業再生が加速し、雇用拡大にもつながる。歓迎したい」としている。